

教育臨床心理実践センターだより

教育臨床心理実践センター発行
2012年5月発行 第4号

センター長挨拶

これまでの活動と平成24年度に向けて

教育臨床心理実践センター長 本間友巳

センター改革の一環として、新たに「教育臨床心理実践センター」が設立され、約1年半が経ちました。この期間に、本センターではさまざまな取り組みを行ってきました。

新規事業としては、附属学校園へのスクールカウンセラー派遣(桃山地区、京都地区に各1名)を、平成23年4月から開始しました。この1年間に数多くの相談がカウンセラーに寄せられ、大きな成果を上げつつあります。

これまで行ってきた「心理学コース大学院生相談員の派遣(小中学校対象)」と「本センター心理教育相談室での相談活動」に、この「スクールカウンセラー派遣」が加わることにより、附属学校園への教育臨床心理的な支援に関する包括的な枠組みが確立されつつあります。

本年度は、このスクールカウンセラー事業をより充実・発展させていくとともに、従来から行ってきた教員や地域の方々を対象とした相談活動や研修活動も、これまで以上に積極的に推し進めていく所存です。どうぞ、本年度もよろしくお願いいたします。

コラム・・・センター兼任教員から

忘れられないケース－カウンセラーの思い出をめぐって－

教育学科 内田 利広

長いこと心理臨床に関わり、多くのクライアントさんと出会ってきましたが、その中でも忘れられないクライアントさんとの出会いがいくつかあります。その中でも特に私にとっては、後悔にさいなまれ、今でも思い出すケースがあります。

その子(小学高学年の女儿)との面接は、プレイセラピーを通して、順調に進んでいました。その子は、不登校でしたが、ひとりで電車に乗って相談室に通っていました。私とのプレイセラピーを非常に楽しみにしているようであり、私もその子のプレイを楽しみにしていました。数回面接が続いた頃、その面接の前日に新年会がありました。まだ、若かった私は、そこでかなりお酒を飲んでしまい、ひどい状態でした。意識がもうろうとし、夜は友人の家に泊めてもらい、トイレに何回も走りました。翌日の朝になっても、頭はガンガンと痛く、ふらふらの状態でした。それでも私は急いで家に帰り、風呂に入り、さらには二日酔い用のドリンクを数本飲んで、何とか面接までには回復しなければと思っていました。しかし、お昼になって

も頭の痛みは治まらず、逆にさらに痛みは激しくなり、立っているのもやっとの状態でした。

私は、相談室に向かいましたが、このままではフレイはできないと判断し、そのことを正直にその子に伝えようと思いました。時間となりやってきたその子に、私は体調不良を伝え、本日は面接できないので、次回にお願いしたいと伝えました。その子は、一瞬顔が曇りましたが、にこりと笑って「分かりました」と応えました。その時の表情が今でも脳裏に焼き付いています。その日帰ったクライアントは、二度と私のところにやってくることはありませんでした。その後、私はあの時どうするべきであったか、いろいろ考え続けました。そして、そこから私の思いあがった自己愛を感じ、ひどく反省しました。もう20年前の話ですが、いまだに忘れることはできません。

心理教育相談室について

個人・家族・学校などの悩みや困った問題について心理的援助を行っています。まずは電話にて、お気軽にご連絡ください。075-644-8824(月曜～金曜、午前10時～午後4時)。

なお、平成25年3月末まで、東日本大震災の被災者および東日本大震災に直接関連する相談は、無料で行います。

公開講演会の案内

東日本大震災後、岩手県でスクールカウンセラーとして活動している渡部先生をお迎えして、この間の活動を中心にお話していただく予定です。

日時:平成24年7月27日(金) 午後3時～5時

演題:「東日本大震災の被災地におけるスクールカウンセラー活動の実際」

場所:京都教育大学 教育支援センター 2階 教授スキル実習室

講師:渡部友晴先生(岩手県陸前高田市スクールカウンセラー)

教育臨床心理実践センター・スタッフ

専任教員(センター長) 教授 本間友巳 准教授 花田里欧子

兼任教員 教授 森孝宏 准教授 内田利広 准教授 小松貴弘 講師 西村佐彩子

相談員 岩瀬圭代子(月曜日) 荒井久美子(火曜日、金曜日) 西山智栄子(水曜日、木曜日)

編集後記

ニュースレター第4号では、新年度にあたり、センター長挨拶ならびに兼任教員のコラムを掲載いたしました。今後とも教育臨床心理実践センターをどうぞよろしくお願いたします。

